



福井県PTA

◆発行者：福井県PTA連合会 会長 木村正俊 広報委員会
◆発行所：〒918-8135 福井市下六条町14-1（福井県生活学習館2階）TEL 0776-41-4253 FAX 0776-41-4333
◆ホームページ：http://www.fukui-pta.jp （社）日本PTA全国協議会 http://www.nippon-pta.or.jp/
◆E-mail：mail@www.fukui-pta.jp



CONTENTS

◆ 会長挨拶「広報紙100号を迎えて」	2
◆ おめでとう文部科学大臣賞受賞	2
◆ 知事と語る会	3
◆ 福井県選出国会議員への要望活動報告	3
◆ 環境委員会報告	4
◆ 未来を創る e-家族	5
◆ 一筆啓上 我が家の三原則	5
◆ 福井県PTA連合会創立60周年記念大会	6・7
◆ 『温故知新』(100号記念企画)	8・9
◆ 第65回東海北陸ブロックPTA研究大会に参加して	10
◆ 第57回日本PTA全国研究大会に参加して	10
◆ 第66回東海北陸ブロックPTA研究福井大会	11
◆ 県Pゆめ基金「単P活動支援金」の事業終了報告	11
◆ 安全・安心啓発事業推進助成金交付について	12
◆ 福井県PTA連合会掲示板	12
◆ 編集後記	12

安全・安心啓発事業

推進助成金交付について

県PTA連合会安全会では、子どもの安全・安心を守るための事業を積極的に推進し活動している単位PTAに対して、三年前から助成金を交付しています。この事業もようやく定着し、申込みを希望する団体も増え、今年度は三十の単位PTAに合計八十八万円余りを交付させていただきました。

ここで、それぞれの単位PTAが実践された事業内容の一部をご紹介します。

- ・登下校時の街頭指導用たすき
- ・不審者対応用「さすまた」
- ・危険箇所表示安全マップ
- ・見守り隊車両貼り付け用マグネット
- ・講演会「正しいネットの使い方」
- ・防犯パトロール用安全ベスト
- ・見守り活動用腕章
- ・交差点一旦停止足型付け用ペンキ
- ・自転車点検合格証
- ・防犯用赤色合図灯
- ・防犯用拡声機

次年度も、当事業は継続する予定です。応募要領は新年度に入りましたら、各単位PTA宛に送付します。手続きは簡単ですので、多くの団体の応募をお待ちしています。



福井県PTA連合会掲示板

●平成22年度行事予定●

(一部変更あり)

開催月日		曜日		行事等	
4月上旬		土		各都市P連役員等の報告／ 広報紙コンクール審査会	
5月8日	20日	火		地区別PTA研修会打合せ・新旧ブロック長引継ぎ会 平成22年度(第10回)広報紙づくり講習会	
5月8日	9日	土		敦賀会場(午前9時30分～) 福井会場(午前9時30分～) 平成22年度 第60回年次総会	
6月4日	29日	金		第1回理事会(新メンバーによる)・常任理事会 郡市PTA会長・事務局長会議	
6月4日	11日	金		東海北陸ブロックPTA研究大会福井大会	
6月12日	19日	土		地区別PTA研修会……坂井ブロック	
6月19日	26日	土		地区別PTA研修会……奥越ブロック	
7月10日	17日	土		地区別PTA研修会……福井・永平寺ブロック	
7月10日	24日	土		地区別PTA研修会……嶺南ブロック	
8月7日	27日	金		東海北陸ブロックPTA研究大会福井大会	
8月7日	28日	土		分科会発表PTA事前打合せ会	
8月27日	28日	土		子育て研修会(若狭図書学習センター)	
8月27日	28日	土		全国PTA研究大会 ちば大会	
10月23日	28日	土		第66回東海北陸ブロックPTA研究大会福井大会	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日	日		〃	
10月23日	24日				

編集後記

広報紙「福井県PTA」が、本号で一〇〇号を迎えました。

これを機会に、現存する広報紙に目を通してみましたが、古い広報紙は劣化が著しく、閲覧可能なものは二九号（昭和五三年）からでした。しかし、現在でも参考となる記事がたくさんありました。活気あるPTA活動のため、毎号絶やさず積み上げてきた先人の偉業に、改めて敬意を表したいと思います。

記念すべき節目の紙面をどのようにするか悩みましたが「温故知新」と題して、過去の記事から現在も参考となる記事を集めてみました。紙面の都合もあり、オリジナルの記事の半分以上を割愛したり編集したりもしましたが、なんとか意味が通るよう配慮いたしました。

今回の広報紙を発行するにあたり、急な原稿依頼にもかかわらず、多くの方々に寄稿して頂きました。深く感謝致します。

県P連 広報委員長

高津 琴博



子どもの安全・安心施策について

Q1 新型インフルエンザ感染拡大防止対策と高校入試時の配慮について

A1 高校入試においては、ワクチンの方をなるべく早く受験生にいきわたるように関係機関の方へ要請をしている。

Q2 小中学校耐震化の進捗状況について

A2 平成20年度の耐震化率ですが、全国では17位。東海地域地震の恐れがあるところ東京・神奈川・愛知を除くと、全国9位。耐震化率が66%。今年度末には75%ぐらいになる。

Q3 交通事故、犯罪や薬物などから子どもを守るための各課の対策について

A3 警察との連携が必要になってくる。未然防止に全力をあげる。教育現場の方でも情報を交換し合って、交通安全も含め、対応をしていきたい。

本県の学力向上施策について

Q4 本県の子どもの学力・能力について

A4 県独自の負担で少人数学級、IT装置の応援とか、先生方の研修をしている。学力については高い水準であるが維持するのが必要。学力テストは基本的に続けたい。子どもたちが受けることが大事と考えている。

Q5 子どもの学力向上に向けて、教員のレベルアップのための取組みについて

A5 福井県は小中学生の学力は高いが、高校生のセンター試験では全国7位。学力の維持の強化をしたい。その為にも、学力向上センターを設置し、今後も先生力の向上を重視していきたい。

新しい学校のあり方と全国の動向について

Q6 2学期制の全国の取組状況と県内の現状における課題について

A6 最近の全国の傾向では20%近い。授業実施数を確保しやすいというメリットがある一方で、保護者の方からは学力低下の不安がある。

Q7 教科センター方式のメリット・デメリットと、県内での普及について

A7 至民中学校見学者は4月以降だけで1560人。フィンランドの有名な先生も来た。至民中は教科センター方式になるように学校もそのようにつくっている。生徒も活気がある。また福井大学教職院大学の方からも教授や准教授が来て、教員にいろんな指導をする場にもなっている。デメリットについては教室ごとの帰属意識が弱くなるのではないかと当初はなされていたが、現在クリアしている。卒業後の進路選択にどのような結果がでるか注目している。

Q8 高校再編計画についての進捗状況について

A8 現在最減少の奥越地区より検討を進めている。学校のレベルアップを図るために再編の中で方策を考えている。職業系の総合産業高校では一層の充実策を考えている。まずは奥越を成功モデルにしたい。



福井県選出国会議員への 要望活動報告

特別委員長 中村 宗玄

平成21年11月17日18日、木村会長他11名が、国会議員会館に赴き、県選出の国会議員の方々に「福井の明日、もっと元気に」における教育に関する要望を行ってきました。各議員に対し、PTAなどによる共済事業の存続を可能にする制度確立

- 30人学級の拡充
- 経済的に困窮している家庭の子どもへの経済的な援助の充実
- 通学路の安全確保や学校防犯設備の整備促進
- スクールカウンセラー、養護教諭(保健室の先生)配置の充実

以上五項目を要望しました。

若泉衆議院議員、糸川衆議院議員、稲田衆議院議員、山本参議院議員、山谷衆議院議員、とは直接お会いすることが出来、要望・懇談を行いました。高木衆議院議員、笹木衆議院議員、山崎参議院議員、松村参議院議員には、秘書の方を通じて要望書を手渡しました。また、特別に文部科学省に於いて高井美穂政務官とお会いすることもできました。それぞれ懇談の中では、我々を温かく迎えていただき、先に挙げた五項目に加えて、受験生のインフラに対する措置について要望をしてまいりました。あと17日は衆議院本会議の開催日で、議員のお計らいにより、短い時間ではありましたが、本会議の傍聴をさせていただきました。福井の明日がもっと元気になるよう、子どもたちの輝かしい将来のために、県選出国会議員の皆さまのご活躍を願っております。





広報紙二〇〇号を迎えて

福井県PTA連合会会長 木村 正俊

平素は、福井県PTA連合会の様々な活動に對しましてご協力を賜り心より御礼申し上げます。昭和二十七年に福井県PTA連絡協議会から連合会へと名称を改めましたのと同時期に「機関紙PTAだより」現在の広報紙の創刊号が会員の皆様に配布されました。当時は、印刷技術も発達しておらず、広報紙担当の皆様方は大変なご苦勞をされたことと思います。その後、半世紀を経て今回の記念すべき一〇〇号発刊を迎えたのです。昨年、福井県PTA連合会六〇周年記念式典を開催いたしました。広報紙も連合会の歴史と共に歩み続けてまいりました。会員の皆様に連合会の活動状況を報告することは勿論ですが、理解と協力を求め保護者と学校、そして地域を結ぶ使命を広報紙は担いながら、PTAの発展に貢献してまいりました。ここで、創刊号発刊からご尽力をいただきました先輩諸氏、そして、ご支援、ご協力をいただいたすべての関係各位に、改めて衷心より敬意と御礼を申し上げます。

多様化し、発展を続ける現代社会において「結果」だけを追い求め評価する傾向があるように思います。「勝ち組・負け組」という言葉もそのような状況の中から生まれたものだと思いますが非常に残念で悲しいことです。以前、私たちは結果だけではなく「努力する課程」も同じように賞賛してははずです。その努力する過程が大変であればあるほど、より一層大きな感動と強い絆が生まれることを・・・広報紙を例にとっても同じ事が言えるのではないのでしょうか。当たり前のことでありながら、忘れてはいけない大事なことをしっかりと子どもたちに教え伝えていくことにより、希薄化した人間社会から濃密な人間社会へと移り変わると 생각합니다。

福井県PTA連合会では「はぐくもう家庭の教育力、見直そう基本的生活習慣」をスローガンに数多くの事業を展開してまいりましたが、今後も更に、家庭、学校、地域の要となるPTAを目指し努力してまいりますので、皆様の益々のご理解とご協力をお願い申し上げます。

終わりに、本紙編集に携わっていただいた皆様に厚く御礼を申し上げ、一〇〇号発刊記念のご挨拶とさせていただきます。





輝かしいご受賞 おめでとうございます

日本PTA全国協議会年次表彰式が、11月18日、ホテルニューオータニにて盛大に開催され、PTAの振興・発展に寄与した団体と個人に対し文部科学大臣賞、日P会長賞が授けられました。

県PTA関係の受賞者は、次のとおりです。

☆文部科学大臣表彰

- 福井市 森田中学校PTA
- 若狭町 上中学校PTA

☆日本PTA会長表彰

- 坂井市 坂井中学校PTA
- 越前市 武生第六中学校PTA
- 大嶋 良雄・奥村 隆司
- 岩坂 昭宏・角矢 千鶴





今年度、福井大学と関西電力の共催講座「みらいを創るeー家族 くらしに学ぶエネルギー」を奥越ブロックにおいて2講座、丹南ブロックにおいて2講座、計4講座を行いました。このプログラムは、2006年から行っている福井大学の公開講座を元に、小中学校の子どもを持つ保護者を対象に、エネルギーへの理解を深め、子どもや地球の将来の事を自ら考え、判断するための知識と考え方を身につける講座です。奥越ブロック、大野市PTA連合会主催の講演会では、放射線を発見したキュリー夫人の栄光と苦悩を福井大学 田村圭介教授がキュリー夫人の娘の著書をもとに講演されました。また、大野市開成中学校主催の講演会では、中田隆二教授による講演と、毎日使う台所を例に挙げ、小さな魚型の醤油入れの中で電気を水素に変化させたり、フィルムケースの中に電気を貯めてオルゴールを鳴らす等の実験をされました。丹南ブロックでは、越前市武生第一中学校において、葛生伸教授により「ペットボトルから未来を見よう」というテーマで講演が行われました。ペットボトルに熱を加えて変化を観察したり、ペットボトルや空き缶のつぶし方の実験をしたりしました。リサイクルする為にはアルミ350ml缶の場合、100Wの電球を二日間点灯し続けるエネルギーが必要であり、その電球の中でもLEDは寿命時間が白熱や蛍光灯よりも遙かに長い為、価格も高くなっている等の話もされました。水力発電と火力発電についても、実験を見ることができ、再認識することができました。また、エネルギーとは？絵や言葉で表してみたら？とグループで話し合っエネルギーについて考える時間も持ちました。鯖江市PTA連合会研修会でも、「熱の流れ・歴史の流れ」というテーマで葛生伸教授に同様の講座を行っていただきました。

どの講座も講演を聴くだけでなく、身近な物を用いた実験を私たち大人が実際に目にする事でエネルギーに改めて興味を持ちました。そしてもっと学び、考え、生活に役立て、子ども達に理科のおもしろさを教えるとともに、エネルギーの大切さを伝えていくことができたと思います。参加された会員の皆様が少しでもこの講演を参考にしていただける学びの場であったなら、幸いに思います。

副会長 脇田 淳子

みらいを創るeー家族
くらしに学ぶエネルギー

平成21年度 福井大学・関西電力 共催講座

“一筆啓上 我が家の三原則”
たくさんのご応募ありがとうございました。

わだ あきら
志比北小学校2年 和田 滉 さん

「我が家の三原則」 ①あいさつをわすれない ②早ね早おきをする ③すききらいをしない

往(おかあさん) 早ね早おきができるようになったけど、まだまだ一人では、ねむれません。いっしょにねてね。
復(あきらくんへ) 一人でねむれるようになってほしいけど、いつまでもいっしょにねてほしいなあとも思っているよ。

ひら い のぶひろ
あわら市芦原中学校3年 平井 展洋 さん

「我が家の三原則」 ①あいさつをすること ②時間を守ること ③感謝をすること

往(息子へ) 時には反抗的なあなたがさりげなく口にする「ありがとう」は、母さんの気持ちをあったかくしてくれます。
復(おふくろへ) おう、ありがとう。これからもよろしく。

福井県PTA連合会の独自の取り組み、「我が家の三原則」事業も六年目を迎えました。昨年度より各家庭で作っていた「我が家の三原則」をもとに、親と子が心のメッセージを交わしていただく往復書簡を募集させていただいたところ、3539編という多数のご応募をいただき、誠にありがとうございました。この事業を通して、親と子が言葉を交わすコミュニケーションのきっかけになりましたなら、幸いに思います。最後に、この「親と子の心のメッセージ一筆啓上・我が家の三原則」にご応募いただきましたみなさま、並びにこの事業に際し、ご支援、ご協力いただきましたみなさまに深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。

副会長 脇田 淳子
生涯学習委員長 朝倉 富成

環境委員会報告

環境委員長 新谷 正浩

福井県は海あり、山あり、川あり自然環境が豊かであり、歴史的にも有名な場所、建造物等が多数残っております。また、全国的にも学力、体力は上位で、子どもたちの環境は非常に良いものです。この素晴らしい環境の下、子どもたちはすくすくと育まれています。

しかし、この環境も色々な面から脅かされているのも現実です。「携帯電話」、「サイト・ブログ」、「いじめ」など、昔では言葉になかった単語が、毎日のように聞こえてきます。このような現実はいくらでも一層激しさを増していくでしょうが、最初の一步をいかに対応するかが大切です。子どもたちは皆、平等で、純粋無垢ですが、周囲の環境に反応しやすく流されやすいものです。そこで、周りの大人たちが、人間本来のよい姿を常に表現し見せながら接する事が大切だと感じます。情報を皆で共有し、協力し合う体制が必要であり、それは家庭・学校のみならず、地域を含めた社会全体で取り組んでいかなければならない事だと思います。

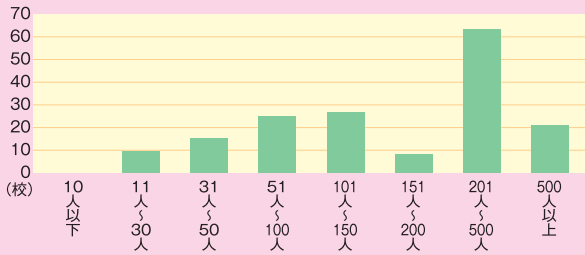
最近、周囲ではいろいろな事件が起きています。近寄らない、関係ない、目をつむる、では環境は益々崩れていきます。先ずは子どもたちの身近な大人たちが環境を整える努力をしましょう。これからもご協力をお願いいたします。

環境委員会では各単Pより環境に関するアンケートを実施し、日頃の取り組みについてまとめてみました。

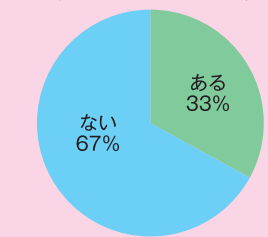
アンケートは小学校・小中学校・中学校別に集計しそれぞれの取り組みについて調べました。

ここでの紹介は小学校から中学校までの全校の集計の一部を載せています。(詳細は3月発行予定の平成21年度・福井県PTA連合会・委員会報告を参照してください)

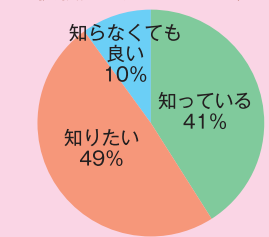
Q.児童・生徒数は？



Q.携帯電話に関する講演会を実施したことがありますか？



Q.携帯電話に関する講演会依頼先を知っていますか？

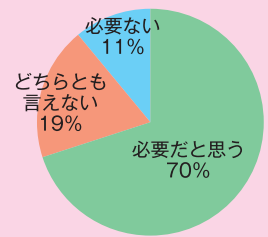


携帯電話に関するアンケート結果はグラフの通りとなり、携帯電話の講演会の依頼先については、

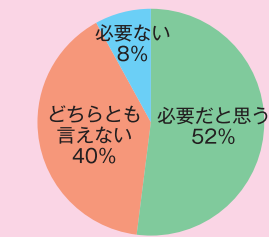
- ①NTT出前授業『ケイタイ安全教室』
- ②警察『ひまわり教室』
- ③NTT『eネットキャラバン』
- ④教育研究所『ねちずん村の講師』
- ⑤『ふくいチャイルドライン』代表者

などからの御講演をいただいて児童・生徒及び教職員を交えて勉強をしているとの結果が出ました。

Q.携帯電話に関する講演会をどう思いますか？



Q.携帯電話に関する子ども条例は必要ですか？



今、学校で取り組んでいる内容や課題については

- ①児童・生徒への携帯電話の必要性について(親が携帯に対する危険性についての情報が乏しい)
 - ②見守り隊活動のボランティアの人数及び活動継続について(高齢化及び活動者数減による会員持ち回り)
 - ③地域との交流活動と児童・生徒の地域行事への参加について(あいさつから始まるコミュニケーション)
 - ④安心安全緊急メールへの登録と活用について(費用と登録者以外への伝達方法)
- などについて取り組んでいるとの結果が出ました。



送付して下さった安全マップは、どれも児童・生徒にわかりやすいマップばかりでしたが、上の4つの例を掲載させていただきました。

温故知新(100号記念企画)

「子育て」に関する記事から

子育てに関する記事は、シリーズものや講演会報告など毎号掲載されており、参考記事は枚挙に暇がありません。このような中から重要なエキスのみ抽出してみました。身につまされる内容です。

問われているのは 私たちのすがた

子どもたちは、私たち大人の姿を映す鏡です。子どもたちが健全に育つてほしいと願うならば、私たち大人が健全でなければならぬでしょう。

(平成十一年 第七八号より)

父親には

- ・子育てには積極的に参加しよう。
- ・子どものことをよく知ろう。
- ・暴力での解決はダメ。
- ・真剣に生きる姿を子どもに見せる。
- ・顔を見れば勉強、勉強と言わない。
- ・自分の子を他の子どもと比べない。
- ・感情や気分で子どもを叱らない。
- ・「早く早く」とせかせかせない。
- ・他人の悪口を子どもの前でしない。

(昭和五十九年 第四三三号を編集)

親子の距離

- 0～三歳 「肌をはなさず」
- 三～七歳 「手をはなさず」
- 小中学校 「目をはなさず」
- 高校以上 「心をはなさず」

(平成十九年 第九五号より)

家庭でのしつけ

(前略) 子どもにとっての「家庭」は生活の基盤であると同時に最も心の拠り所でもあるわけだ。

(中略) 家庭での「しつけ」の在り方如何によつては、子どもの将来が決まる極めて重要なことであります。

「しつけ」は、特別難しいことではありません。「しつけ」を教えるようにするとところに問題があるのです。

「子どもは親を見て育つ」と言われています。親として、大人として子どもの手本になる行動(恥ずかしいくない行動)をすればよいということ、きわめて簡単なことであります。

具体的には

- 家庭円満につとめる。
 - 不道徳なことは慎む。
 - きまりや法律を守る。
 - 社交的遊びは慎む。
- などに心掛けることになると思います。(後略)

(昭和六十年 第四四号 記事より)

「ドクター通信」から

「ドクター通信」は、県PTA連合会審査委員で、県PTA連会長もされたことのある田中廣昌先生によりほぼ毎号執筆していただいております。内容は、健康、疾病、喫煙、食育、環境問題など多岐にわたり、最近では新型インフルエンザ、メタボリックシンドロームなど、タイムリーな記事を執筆していただいております。これまでの記事を集めれば一冊の本が出来上がるほどですが、今回は多数ある記事から、「温」と「新」に因むものを編集抜粋して再録させていただきました。



温暖化の影響

温暖化が進むと、(ウイルスを媒介する蚊の生息域が広がるなどして) 熱帯性感染症、マラリヤ、コレラなどの増加をはじめ健康への大きな影響が予想され、異常な暑さによる熱射病、脱水症状はもう現実問題になっています。

環境問題は、将来にわたって人類の健康にとどまらず、生物の生存自体に計り知れない影響を及ぼします。いまや環境問題は、人類全体の問題として取り組まなければ取り返しのできないことになりつつあります。

地球規模の問題であっても、私たち一人一人が身近な所から、できるところから、こつこつと積み上げてゆくことです。エコライフの実践こそがその第一歩です。

(平成十八年 第九三三号より)

新型インフルエンザの予防

主な感染経路が「飛沫感染」と「接触感染」など、季節性インフルエンザと変わらないので、まずは手洗いが重要です。特に帰宅した際には、石鹸なども使って指や爪の間を、時間をかけて丹念に洗いましょう。手洗いはインフルエンザだけでなく、あらゆる感染症予防の基本です。

マスクをすることも大切です。マスクを過信することは問題ですが、咳やくしゃみでウイルスを飛散させないというエチケットが大切です。空気が乾燥すると、喉の粘膜も乾きやすくなり、ウイルスを防ぐ力が落ちますので適度な湿度を保つように心がけて下さい。湿度を保つためにもマスクは大きな効果があります。

栄養のバランスがとれた食事と十分な休養、睡眠をとるなど健康管理に注意し、体力や免疫力を高めておくことが大切です。また、人混みの中や、流行地など、不要不急の外出は控えることも重要です。

(平成二十一年 第九九号 記事より)

「日中友好少年少女の翼」参加感想文から

「日中友好少年少女の翼」事業は、日本PTAが社団法人となったことを契機に昭和六十一年から実施されて、今年の三月で二五回目を迎えます。左の記事は、記念すべき第一回に参加した生徒の感想ですが、その示唆に富んだ内容には驚かされます。急激に発展を続ける中国が、日本を抜いて世界第二位の経済大国となった今、この事業の果たす役割がますます重要となるでしょう。



僕が感じた中国

福井県 二班 滝波 宏文 (陽明中学校)

中国で一番すごいと思ったこと、それはあつちの生徒たちがすごく、やる気”を持っていることです。僕の学校などでは、先生がいくら質問したってあまり手などもあげないし、指名されたところで答えが解っていない、なかなか答えない、というのが常です。だから中国の生徒たちが、はい、はいと手をあげるのを見てとても驚きました。もし、中国全土に教育制度が普及すれば日本なんか比べようにならないくらい大きな力を発揮するだろうと少々怖くもなりました。

北京市内を見ていると、なんとなく日本の二、三十年ぐらい昔あたりまで追いついているような気がしました。リーダーが言っていたように、日本の近代化が始まったのが一八六七年の明治維新で、中国のが一九四九年の中華人民共和国成立とすれば、その間には八十年以上のブランクがあるわけで、それを二十年に縮めたのは本当に驚くべきことだと思います。しかし、僕は経済大国になるにはまだ一〇〇年以上かかると思っています。北京のような姿を地方でも見せるには、そのくらいの歳月が必要でしよう。しかし、中国がその眠りから覚めた時には、ケタ違いの力を発揮すると思います。言い方が悪いかもしれませんが、その日に生き残るためにも、日中友好は不可欠だと痛感しています。

(昭和六十一年 第四七号 記事より)

積極的に職場へ「出かけるPTA」活動から

子育て研修の折、「いくらい良い先生を迎えて講演会を開いても、本当に聞いてほしい人に来てもらえない」という嘆きの声が聞かれることがあります。

左の記事は、「出かけるPTA」と称して民間企業へ積極的に出かけていき、父親も母親も、また将来父親・母親になる方も含めて研修を行った点で意義深いものです。



「出かけるPTA」趣意書

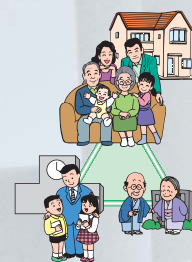
元会長 水島 洋一

(前略) 私たちPTAは、(中略) 青少年の健全な育成の根幹は家庭教育にあるとの認識にたち、その重要性を強調してまいりました。

このため、私たちは父母の研修についてあらゆる方策をたてその対策に腐心しているところでありますが、何分にも父親も母親も、また将来父親・母親になる方も含めてそれぞれに職場に従事され、子どもの教育に関心を持ちながら、心ならずも研修の機会を得られないのが現状のようであります。

そこで私たちPTA連合会ではこうした現状を改善するためには、もはや学校などに「集めるPTA」活動だけでなく、積極的に保護者である父母の勤務する企業の職場にお邪魔しておこなう「出かけるPTA」活動の推進を図ることが効果のある方策になると考えました。同じ世代の子弟をもつ保護者の一人として、父母の悩みを話し合い、相談し合うことで、家庭における父や母の在り方を考え、より健全で適切な子育ての方法や明るい家庭づくりも生まれてくると思われれます。(後略)

(昭和六十二年 第四八号 記事より)



東海北陸ブロック大会 名古屋大会に参加して

副会長 西 史司

「未来へ 今できること」～みんなで 鳴らそう 家庭・学校・地域の
トライアングル～をテーマに10月23日(金)・24日(土)の両日、第65回東
海北陸ブロックPTA研究大会名古屋大会が開催されました。金鯱が輝く
名古屋の地に東海北陸6県1市から約2000人のPTA会員が、また福
井県からも100名以上の会員の方が参加されました。

1日目は、名古屋市内の6会場において分科会が行われ、家庭教育・学
校支援・地域連携の各分野で12校のPTAが実践発表をしました。美濃和
紙を使ったあかりアート創作教室や食を通しての「おやじの会」、読み語
りボランティアを通して子どもとの触れ合い、学校に泊まろうキャンプ、
ワカメ養殖の体験学習支援、そして福井からは「文殊の火祭り」を通して
の貴重な体験発表と盛りだくさんの内容で充実した各分科会でした。

2日目の全体会では、『のびのび子育てのススメ』と題して、女性スポ
ーツキャスターの草分け的存在であり、与田剛投手と結婚された木場弘子
氏の講演が行われました。おだやかななかにも活発で理知的な話しぶり、
のびのび子育ての中にも一本芯が通った内容で美貌と相まって思わず引き
込まれてしまいました。最後は、木場氏対聴衆の皆さんのジャンケン大会
で勝ち残った方に木場氏のサイン入りの本が送られ、大変盛り上がりまし
た。

本年10月23・24両日は、東海北陸ブロック大会が福井県6会場で行われ
ます。昨年以上に盛り上がるよう、PTA会員一同「おもてなしの心」で
一致団結して頑張りましょう。

第66回東海北陸ブロック PTA研究大会 福井大会のご案内

平成22年10月23日(土)・24日(日)に、第66回東海北陸ブロックPT
A研究大会が福井県で開催されます。

大会のテーマは「話そう！笑って抱きしめて」～ほやの、みんなでやる
っさ」です。

子どもたちの幸福はすべての親の願いです。子どもたちが手を取り合っ
て力強く未来を切り拓いていけるよう応援することは、私たち大人の責務
であり大きな喜びでもあります。

そのためには、子どもたちを笑顔で抱きしめ、向き合って話をし、コミ
ュニケーションを深めることにより、「人っていいな」「社会って楽しい
な」と子どもたちに体感させることが大切ではないでしょうか。同時に、
私たち親、教師、地域の人たちも互いにもっと近づいて、朗らかに語り合
い、そして助け合い、ともに生きる社会を目指して活動していこうではあ
りませんか。

多くの会員の皆様のご参加を心からお待ちしております。



大会日程	
第1日目 10月23日(土) ●県内6会場	11:00 11:30 受付 分科会・打ち合わせ 13:30 14:40 分科会 16:00 受付
第2日目 10月24日(日) ●サンポート福井	8:30 9:00 受付 オープニング 9:30 10:30 開会式 記念講演 11:30 12:10 開会式

第57回日本PTA全国研究大会

みやぎ大会に参加！



参予 大島 良雄

スローガン
「向き合おう！まっすぐに
語り合おう！子どもの未来のために」

2009年8月21日・22日の両日、第57回日本PTA全国研究大会
みやぎ大会が全国からPTA会員・教育関係者約7700人が集う
中、開催されました。今大会のスローガンには、親と子、子と先生、
先生と親そして地域の人たちと向き合うこと、そして、互いが前に向
いた言葉で語り合うことが大切であるとの思いが込められています。

初日の分科会は宮城県内11分科会場にて、組織運営、家庭教育、学
校教育、情報活動、地域連携、人権教育、食育などの特色あるテーマ
に沿ってPTA実践発表、パネルディスカッションが行われました。

翌日は、宮城県利府町のセキスイハイムスーパーアリーナを全体会
場にして盛大に開催されました。利府小ジュニアマーチング、地元中
学生による、利府祭人の踊りが披露された後、川島隆太氏の基調講演
と続きます。式典では、文部科学大臣、宮城県知事他多数の来賓を前
にして、日本PTA相川会長が全国会員に向けて挨拶されました。

次回の全国大会開催地は千葉県です。皆さんも是非一度、全国大会
に参加してみたいかがでしょうか。そのスケールの大きさは、予想
以上のものでした。

全体会基調講演より抜粋

演題 「脳科学から見た 早寝・早起き・朝ごはんの大切さ」
講師 川島 隆太氏 (医学博士・東北大学教授)
著書 「脳を鍛える大人のドリル」他

脳の機能が正しく働くためには充分な睡眠と食事が必要です。食
パン・菓子パン・おにぎりなどの炭水化物や糖分だけ摂るのではな
く、たんぱく質、ビタミン、ミネラル・脂質などのバランスが取れ
たものであることがさらに重要となります。例えば、ご飯に味噌汁
といった具合にです。

そして、子どもたちの「生きる力を育む」ためには「家庭で親子が
関わり合う事」が必要である。具体的には親子で何かをやる事、出
来た事をすぐに褒めてやる(話しかける)事が一番大切です。

研究例として、子どもとお母さんとでホットケーキを焼いてみる
と、母親が「上手ね！」と褒めると、前頭前野がとても活発に動き
ます。実はすぐに褒めるのが大切で、後から褒めても子どもの脳は
動きません。親と一緒に何かを行うこと、同時に話しかけることが
とても大切です。時間を惜しまず、子どもと行動し、たくさん褒め
てあげてください。

県P ゆめ基金 「単P活動支援金」の事業終了報告

越前市味真野小学校愛育会会長 野川 輝久志

今年度の味真野小学校PTAの活
動に対してご支援いただき、ありが
とうございました。

●活動報告「看板取替え登山」

7月17日 実施計画立案

8月22日 案内掲示看板作りと
下地ペンキ塗り

9月22日 児童による看板の図案
のペンキ塗り

10月10日 看板取替え登山実施

学校行事の両親学級「味真野地区
史跡巡り」の7コースの1つを武衛

山の「看板取替え登山」として実施
しました。看板はPTA実行委員が
休日を利用して作成・下塗りし、文
字や図案は本コースに参加する児童
や保護者が描き、看板資材は地域か
ら補助されました。当日、保護者、
児童、教職員が出来上がった看板と
ゴミ袋を手を登山を開始。看板設置
とゴミ収集をし、ようやく頂上にた
った時はあいにくの雨になりました
が、目的を達成した感激で胸がいっ
ぱいになりました。